

# 10月の新着図書

- 『OSO18を追え』  
藤本靖 文藝春秋

“怪物ヒグマ”と呼ばれたOSO18。

“怪物”に1人で上げたのは、最初から最後まで人間だった。のどはいいか？人間って本当に勝手。つくづく思います。

- 『ことはが変われれば社会が変わる』  
中村利子 ちくま文庫

例えば、ゼミの先生のパートナーを呼ぶ時、「ご主人」とか、「奥様」とか言いますよね。でもこれって、主従関係も含まれている言葉なのでは？さあ、常識を疑おう！

- 『キョウ、ゴリラをうたふ』  
水野不貴 KADOKAWA

「子どものいいまちがいは、ここの本質が語られている。」さ2、タイトルの“ゴリラ”もいいまちがい。何と間違えたかわかりますか？

- 『アメリカ南部の台所から』  
アンダーソン 現代PI=マスタジオ

アメリカのキッチンって、どんな感じが知りたいですか？次から次に出てくるおいしい料理にワクワクがとまらない！著者と夫とのカワイイやりとりは、(にんまりしてしま)エッセイ。

金曜講談会だ、(おれ)能を拝見。  
美しい作に、遠くまで届く声。  
何かとさわめいた人の挨拶も、すばい。とこからこまて、からかっかな先生だ。

今日は、風が強くて寒かったので「冬の到来」という言葉から舞から寂寥にかけて吹く強く冷たい風を「風(本枯れ)」と書くことまで一獲を得た。

TVで宮沢賢治の将集がありまして。100年前の宮沢が、当時字彙のここととも勉強されてたこと、銀河鉄道の夜の中の馬車、天幕と関係していました。びっくりしました。

今年もあと1月と迫りました。カレンダーを見ると、年末年始は9連休。ちよとしたことだけども、ワクワクしてきます。(でも、ちよとしたこと、ポジティブに「おれまわら」)

鹿児島県立短期大学 附属図書館

電話：099-803-4475 FAX：099-803-4473  
<https://www.k-kentan.ac.jp/library/index.html>



# 県短図書館 通信

令和6年11月 第12号

2年生のみなさん、卒論はすすんでいますか…？

1年生のみなさん、レポートに困っていませんか…？

困った時は図書食官へ。

もう一度言います、困った時は図書館へ。

## ◆ 今月のトピックス ◆

- 2024年と本を振り返る

さそく OPEN →

◆ 図書館職員の仕事 ◆



▶ 今月の特集

テーマ: 2024年を本で振り返る

2024年も残り1ヶ月(早すぎ!)。本当にいろんなことがありまして。ピックアップしたのでさっと関連する本を2冊紹介!

2024年の主な文学賞受賞作

- 芥川賞 → 『サンショウウオの四十九日』 真月比奈秋 (新潮社)
- 『バリカタ』 木公来ト三蔵 (講談社)
- 直木賞 → 『ツミデミック』 一栗ミチ (光文社)
- 本屋大賞 → 『成瀬氏は天下を耳なりに行く』 宮島未奈 (新潮社)
- オリコン年間“本”ランキング
  - 文芸書1位 → 『変は家2』 雨穴 (飛鳥新社)
  - 新書1位 → 『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』 三宅香中凡 (集英社)

石川県で震度7(1月)

- 今もまだ、復興に時間がかかる能登。8月には、南海トラフ地震の臨時小冊子を発表されました。八方災、見直しておこう。
- 『自分で地域が手づくり防災ハンドブック』 農山漁村文化協会  
自分たちでできるまさは“手づくり”な八方災のヒントがたくさん!
  - 『新みんなの防災ハンドブック』 草野かおる (テイクアウェイ・パブリッシング)  
4コマで読み進められているのどわかりやすい! 生きのびるために1冊読んでおこう。

大河ドラマ「光る君へ」放送開始

- 日本文学の専攻がある県知事 (1月) なのだから! としりぞいて 源氏物語関係の本を揃えましてよ。一冊紹介しまし(最近受け入れたもの)。
- 『30日 de 源氏物語』 三宅香中凡 (歴史書房)  
源氏物語と読みたい前に読んでおきたい本。面白さが全く変わるはず!
  - 『いま読む 源氏物語』 角田光代, 山本淳子 (河出書房)  
玉見竹語談に取り組みだ角田さんと石研究著・山本さんの対談はおもしろい。

木崎田さん無罪が確定(10月)

- 事件から58年たった、ようやく無罪と決った木崎田徹さん。どんな事件だったのか、何が走っていたのか。
- 『木崎田事件 神にばねかからず男の58年』 青木和雄 (文春新書)  
あまりにも長すぎる58年。密着取材におこその長い長い闘いがびしょ濡れ上がりまくる。
  - 『再審制度ってなんだ?』 村山浩昭, 葛野尋久 編 (岩波ブックレット)  
併せて読んでおいてほしい。

日本被団協 1-バベル平和賞(10月)

- 核爆者の立場から核兵器廃絶を世界に訴えている活動家としての団体の1-バベル平和賞授賞決定。あらためて平和について、考えをみまそう。
- 『14歳のヒロシマ』 木村本泳 (河出書房)  
核爆者の証言活動を続けている木村さん。木村さんからの「平和のバトン」を受けとろう。
  - 『2022年のモスクワで、反戦を語る』 マリーナ・オフシニコワ (講談社)  
今、何が走っているのか、知っておこう。

▶ 図書館からのお知らせ

↑で紹介している本、全部県短図書館にありま

他の公共図書館にと、予約待ちの人達がたぎって、数ヶ月待ちのものも... 県短図書館はらすぐ取り替えることが出来ます! どんどん活用して、お役目に読書と楽しんでいきましょう!